

平成24年度学力向上に向けた取組

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

明るく生き生きと活動し、意欲的に学ぶ生徒の育成

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

全国学力学習状況調査の結果及び3年前からの生徒指導面の強化に向けての取組から、本校の学習面で以下の課題が浮き彫りとなった。

- (1) 学習に向かう姿を作り上げるための「学習常規」の徹底
 - (2) 学習に向かうための「家庭学習と宿題」を徹底してやりきらせるための方策
 - (3) 学習から「離さない」ための「各種補充学習」の必要性
- そのため、校長の経営方針を基に準備委員会等で検討し、重点教育目標の達成に向けて赤川中学校の【より確かな学力】を育む取組をスタートさせた。



2 取組の位置付け

校長・教頭・教務・研究・生徒指導が「学力向上」に関わる共通理解を図り、教育課程の改善充実を進めている。

3 取組の方法

1. 数学ではTTや

習熟度別学習を計画的に実施します

基礎を2コースに分けて	かなかなの理解の進まない生徒などの基礎	2人体制で行ったり基礎	2週間	2～3時間	習熟度
1年数学	…	週	2～3	時間	習熟度
別学習	…	年間	14	時間	習熟度
2年数学	…	週	1～2	時間	習熟度
別学習	…	年間	10	時間	習熟度

2. ステップアップ学習

のより確かな充実を図ります

定期テスト前の3日間、生徒全員が補充学習の時間を1時間を利用し、主にテスト対策を中心とした補充学習を行います。また、学年によっては通常の学習の補充にも取り組みます。

3. サポート学習

のより確かな充実を図ります

基礎的・基本的な内容を中心に、生徒一人一人に応じた学習の課題を設け補充することで学習に対する意欲を向上させ、主体的な学習態度を育てます。夏休み前半の3日間と後半の2日間の計5日間を設定しています。

4. 学習規律を

さらに徹底します

授業に臨む態度ができていなければ、授業の内容は伝わりません。自主的に集中して授業に臨む姿勢を育てます。

5. 学習実行表『Red Note』

を生かした学習習慣づくりを推進します

生徒が自分自身で「学習を進めるための実行表」です。その日の家庭生活を記し、次の日に向かうための心構えをつくるための礎となります。併せて「自主学習ノート」も活用します。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ・ 習熟度に
(成果) → 応じた数学科の学習を計画的に実施し、基礎学力の確実な定着に努めた。全国学力調査やチャレンジテスト等で明らかになった基礎基本の学力定着に向け、各教師が課題意識を持って取り組むことができた。
 - ・ 各補充学習の充実
(成果) → 日常の早朝、放課後補充学習・定期テスト前のステップアップ学習・長期休業期間中のサポート学習など各種補充学習に対して、生徒自身が積極的に参加し学習する姿勢が目立ってきている。
 - ・ 学習規律の徹底
(成果) → 確かな学力の定着の基盤となる学習規律が徹底され、学校全体で落ち着いた環境の中、学習に取り組む姿が確立されている。
 - ・ 家庭学習と家庭での生活習慣を充実させるための学習実行記録「RED NOTE」を用いた学習習慣づくりの定着。
(成果) → 学校と家庭、生徒と教師をつなぐ学習及び生活の記録としてRED NOTEを活用し、生徒自身の学習への前向きな姿勢を作るとともに、生活改善への一助にもなっている。
- ※ 学校としての特長ある教育活動は、教育課程全体に取り入れられ、実効性のある取組を今後も継続していきたい。

○ 教育課程検証の方法

- ・ <内部評価として> 7月(中間評価)と12月(年度末評価)の年間2回の内部評価を実施し、年度途中での改善・更新に努めている。
- ・ <外部評価として> 保護者アンケート・学校関係者評価の中で、生徒アンケートの結果を掲載紹介し、評価のための参考としている。
- ・ <生徒アンケート> 生徒アンケートの分析結果を各学年・各分掌の評価に生かし、次年度への改善・計画に努めている。
- ・ <授業評価アンケート> 生徒による各教科の授業評価を実施し、教科の指導法・年間指導計画の改善に生かしている。

※ 内部評価・外部評価・生徒アンケートの項目をできる限り一致させ、評価の整合性を図るとともに、保護者地域関係者への発信を積極的に実施している。